

合宿報告書

目的

- **交流・親睦**

メンバー間の交流を行う。昨年、問題にあがっていた、グループごとの溝を今年は発生させないようにする。

ミーティング時だけではなく、1日の生活を共にすることで、メンバー同士がお互いを知る機会が増える。また、交流・親睦を深めることで、意見が出やすくなり、今後のプロジェクト活動がより活発になることを目指す。

- **障がいごとのグループを超えた障がい理解を目指す**

昨年1年間活動してきて、障がいのグループごとに分かれてしまうことが多かった。しかし、私達は同じプロジェクトの一員で、同じ目標の下に活動している。そのため、今まで関わっていなかった障がいやその支援についても理解することが必要である。また、それぞれの障がいについて客観的に見つめなおすことによって新たな問題や支援方法を見出し、活動・サービスの質の向上を目指すことができる。

旧メンバーは、昨年の活動を踏まえて、さらに一步踏み込めるように、新メンバーは体験的活動から障がいやプロジェクトについて理解できるようになることを目指す。

担当者(主催者)

東海大学伊勢原学生4年

日時

2007年6月30日(土)10時～、7月1日(日)12時

対象者

障がい学生支援プロジェクトメンバー

全体の流れ

1日目

- **聴覚障がい体験(講義)**



難聴者、ノートテイクを体験する。

最初 5 分間はノートテイクをつけず講義を聴講。その後 5 分間で、ペアのノートテイクによる情報保障を見ながら聴講する。

1 人目の体験が終了後、役割を交代して同様の体験を繰り返す。

講師役: 星野さん

(※視覚障がい学生→音量を少し小さめに設定、聴覚障がい学生→2~3人1組でノートテイクを見る)

- **視覚障がい体験(講義)**

アイマスクを装着し、聴講する。(合宿係 2 名はアイマスクをせずに聴講する)

受講後いくつか質問をし、アイマスクをしている学生としていない学生の情報量の違いを知る。

講師役: 吉岡先生



- **聴覚障がい学生からお話**

プロジェクトメンバー(1名)からのお話・質疑応答。

- **視覚障がい・車椅子体験**

雨天の為、視覚障がい・車椅子体験は伊勢原校舎内で行う。アイマスクを着用して白杖の使い方、車椅子の使い方(自走・介助)の説明。グループごとに分かれて体験する。



- **夕食・交流**

クラブハウスにて夕食、交流

2日目

- **視覚障がい学生からお話**

プロジェクトメンバー(1名)からのお話・質疑応答

- **肢体不自由障がい学生からお話**

プロジェクトメンバー(1名)からのお話・質疑応答

- **佐々木公一さん(本学大学院生)からのお話**

内容:ALSである佐々木さんが現在どうやって授業を受けているのか。

大学で困っていること、困難なことは何か。

支援する側としての気持ちや思っていること。(奥さんから)



感想

今回の合宿では、体験や障がい学生からのお話を通して障がいへの理解が深まり、また、1泊2日間の共同生活を通して、メンバー間の交流を深めることができた。特に、一緒に生活をする中で、障がいに対してどのような支援が必要なのか、また、障がいがあってもできることはたくさんあるのだ、ということメンバーが自然と感じ取ってくれたのではないかと思う。このようなメンバー同士のつながりは、これからの活動においてなくてはならないものであるため、今回の合宿で得たものを持続させていかななくてはならないと感じた。

作成者

合宿を通して、メンバーの積極性にとっても感心し、今後の活動に大きな期待を持った。今回メンバーが体験したものは、それぞれの障がいのほんの一部にしすぎない。

しかし、その一部を体験することで、障がいへの理解の一步を踏み出せるのだと思う。メンバーには今回の合宿で個々が感じたことを忘れず、障がいへの理解をより深められるような活動を展開して欲しい。

代表：粕谷